

講演

人種差別撤廢問題に就きて

下村 宏

人種の差別撤廢に就きてといふ題で御話致すことになつて居りますが、實は過日加藤君が見わられて何か此席上に出て話をするやうにといふことでありました。連日雜用に追はれて居りました故に近頃考へて居る問題の一を試に出して見たのであります。實は研究が頗る杜撰でありまして材料も十分集つてありませぬし、又仮に集つて居つても調べるだけの實は時も根氣もなかつたのであります。頗る今日御話するのは散漫たる意見でありまして、特に研究の發表といふやうな價値は全然無しと自覺して居ります。併し私は人種の差別撤廢問題に就て之を批評するとか之を研究するといふ意味ぢやない、此問題を提げられた日本の當局なり又日本國民全般を見て吾々はごういふ感じを抱くかといふのが一であります。此問題を受取つた歐米列強の態度を見て吾々は如何なる感じを有つて居るか、要するに此問題に對する歐米列強の態度、又提案した日本自体の態度に就て恐らくは諸君も種々の感想があらうが、問題は

極めて廣汎な問題で寧ろ私の今夕御話をするには斯くの如きポイントに觸れて考慮しなければならぬではないかといふやうにも取り得ると思ふ。それから殊に私は臺灣に職を奉じて居りますから此東洋に於ける各民族相互の間の立場といふことには特に密接なる關係を有つて居ります。さういふ立場に居る者が此問題を如何に取扱ふか尙ほ進んで現在及び將來に向つて吾々はどういふ覺悟を有つて行かなければならぬかといふのが私の今夕述べやうと思ふ点であります。時も十分ありませす蓋し委曲は悉し難いと思ひます。どうか私の述べる趣旨は大袈裟であるが所謂憂國の心から出て居るのでありますから論する点がどういふやうに觸れやうとも其意のある所は御諒察を願つて置きます。

今日日本の問題と言つて宜いか、世界の問題として殊に世界の變局以來、列國を擧げて各種の問題は如何に解決すべきか又如何に轉々して行くべきか、或人は此社會の問題を勞働問題と婦人問題と人種問題と此三つに多くは分けて論じて居るやうであります。私は前から人口論、之に趣味を有ち又之に就て多少今まで論究を發表したこともありますが、人口問題は世界の限りある面積に限りなく人間が殖むて行けば仮に數萬年の後には所謂丘博士の云ふ如く人類が絶滅するかも知れぬ、私もさう思ふ。が餘り遠い所は姑く措いて現時の状態に於て限りある土地の中に限りなく民族が増殖して行くとするれば一体此運命は如何に進んで行くのか、是は世界の各國民が皆覺悟せねばならぬ問題である。私に言はずと日本民族として仮に日本の國家、日本民族といふことを頭に置いて論じても、第一に日本民族はもつと數多く

殖わて貰ひたい、併し此増加するといふことは場所が伴はなければならぬ。尙ほ言葉を換へていへばそれだけの民族をして活動し得べきだけの面積なり又生産せらるべき富がなければならぬ。限りある面積の中で生産せらるべき富の分量が比較的少くて、言葉を換へていふと天然の資源が薄くして而かも人口が殖わて行けば必然伴ふものは將來に於ける出生率の減少といふことゝそれから死亡率の増加といふことゝ、それから人口の増殖に伴ふ生計難に因つて來る心的即ち物質的にも精神的にも人間の品質の降下といふことで所謂出產バイスコントロールの制限であるとか人種優良エトニツクといふ問題は遠い問題でない、今日に於て非常に考慮しなければならぬ。是は私がいはずとも能く統計局の二階堂君なども屢々數字で發表して居ります陸軍の方も御見わのやうであります、確か田中陸相の著書か何かの中に見て居る吾々年々の壯丁の検査を見ても其推移して行く方向は明かに看取することが出来るのであります。此人口問題といふことは暫く離れるが、常に附いて來るもので、姑く此問題が常にあるものと考へて是から後の總ての議論に常に對照して行く必要があると思ふ。

同じ文化の内容を有し同じ經濟生活の雰圍氣の中に居る者にして尙ほ階級鬭争をする爲に勞働問題が起つて居る。又男女の間に婦人問題といふものが起つて居る。是等は同じ人種が同じ土地に住み同じ歴史を有し同じ宗教なり風俗習慣の下に謂はゞ共同生活をして居る其中で、其中に於ける問題の解決といふことは是は比較的——比較的ですから——先づ輕いと見て宜いと思ふ。人種問題は歴史風俗習慣或は宗教

殊に身体の構造なり色なり是等の差違といふものは、或程度までは文化の進むに従ひ、又國際間の交通が頻繁になるに従ひ、次第に融和されるといふか角が取れるといふ氣味があり得ても、而し是は餘程困難であります。今日の人種問題といふものには、どうも耶蘇教徒の中に佛教徒は困る、或は吾々のやうなカルチュアをされて居る者の中に非常な文化の違つた者が一緒になられては困る、或は毛色なり眼色が違つて居るからそれに對して反感を有つ、此感じは單純な理論で説くことは出来ない。そこで今度の人種差別撤廢といふ問題を標榜した時に所謂平等、自由、平和、或は所謂正義ジャスティス或は世界インターナショナルの安寧エネ、永久パーマネントの平和色々な列國殊に北米合衆國などの標榜して居る言葉の上からいふと、此間に差別を置くといふことの不可なることは言を俟たぬ。第一北米合衆國其國に於ても黒人の奴隸問題で南北戦争まで起つて居る。で確か國際聯盟の起草をした時には所謂通商貿易の自由であるとか或は經濟上の機會均等であるとか、是等の問題の外にです、人種並に宗教の平等といふことは是は草案には記したことがあるといふ話である。英吉利の代表者であるロバートセシル卿の説明に依ると、どうも是は原案には書いて見たが非常に議論が起つた、英國の例を取つても印度に自治といふ問題が起つて來る、或は米國に於ては移民問題が起つて來る、濠洲に於ては所謂白人濠洲主義といふものを破ることになる、理論の可否は別として實行は困難である、先づ是には寧ろ手を觸れぬ方が宜い、宗教も同じです、今日歐羅巴に於ける猶太民族に對する態度はどうか、無論人種上の反感もありませう、併し宗教の相違といふことが、

又重きに居るのであります、今日は宗教の社會に及ぼす効力が軽く薄くなつて來たとしても、今此問題をまるで平等にするといふことになれば、殆ど現實の各國の幾多の法律といふものは忽ち改廢をしなければならぬ、幾多の非常な面倒トランプが此間に起つて來る、で問題になりながら廢めたど、日本の身から見れば撤廢は希望するが今英吉利は此問題に反對をする。此反對には日本といふものも一つの原因であり得る、けれども同じ英國に、所謂グレート大英國の各殖民地なり又所謂與國とも見るべきもの、間に同じ問題が起る。濠洲は獨り日本人の來ることを好まざるのみならず印度人の來ることも困る、南阿の殖民地は日本人はまさか來ぬにしても此處へ印度人の來ることは矢張排斥して居る、同じ英國系統の國の中に於ても非常に違つたものが這入つて來れば困ることは是は事實なのである。自由とか平等とかいふことがです、如何に理想として主張されても現實の問題で到る處例外は出來て居る。民族自決がさうである。民族自決といふことは成程事實問題として露西亞と獨逸なり、或は塊地利なりバルカン一体に於て最も此問題は切實である。いふまでもなく波蘭とか芬蘭とか或はエストニア、或はウクライナ此方面は暫く措いても所謂塊地利なるものは曩に老帝が百歳の後には必ず此間各種族の間に争闘が起る、國の分裂が起る、バルカンの各國の争も種族問題といふことは除却することは出來ない、是等を自決に依らしむるといふことは意義ある言葉であると私は思ふ。徹底した議論であると思ふ。但しです、民族が自決して宜いといふこと、さうして果して其民族が自決し得るや否やといふこと、は別問題である。吾々が

此問題を見て居る時に成程此方面に於ける民族の自決は是に依て露西亞の力も獨逸の力も奥地利の力も戦局の勃發以前に比して著しく力が減殺されてしまつたといふことは想像し得る。同時にチエツクソロイバツクなり波蘭なり各種の國が出来て其民族は自決したといつて或は喜んで居るかも知れぬ、併し一番大きい波蘭なり其他の大なる自決されたる民族でも果して斯うなつたのが仕合せであるかどうかといふことは又別に考へねばならぬ。噓か本當か知らぬが今朝の新聞か昨日の新聞かに波蘭の參謀總長とか或は陸軍大臣でしたか色々な連中が露西亞の過激派の非常な壓迫を受けるから救ひを求めるが爲にホテルに来て居るとか、是から亞米利加に行くとかいふ記事が出て居る、波蘭あたりにして尙ほ然り、リガ方面の小さい分れた國が果して其微力な小さい國で其民族が自決して幸福なるや否やといふことは別問題である。先づそれを考へるよりも吾々は此時局の最中に——愛蘭といふものは御承知の隨分英國に於て長い間の是は癌です、何ぼ切つても此癌は取盡せない、今や英吉利が全力を擧げて一國を賭して聯合軍に這入つて歐洲の大陸で戦うて居る此時局の最中に——愛蘭が獨逸と手を引いて謀叛を擧げたに拘らず此愛蘭の民族の自決といふことはまだ聞かないのである。要するに若し此論じて居る意義を徹底せしめようと思へば一旦世界の國を摺潰して空白にしてそれから手を着けるといふならば別問題であるが然らずんば一民族自決の例を取つて見ても吾々は考物であると思ふ。それならば何故愛蘭に自決をさせぬか、何故印度も早く獨立させぬか、比律賓も現に昨年來上下院長キョーソン或はオスメニア各種の人

々は北米合衆國に訴へて獨立を圖つて居る、是も自決させて宜いぢやないか、爰に所謂矛盾といへば矛盾が起り得る。

私は平常からの持説として所謂世の中には何時も二つの相反した潮流が起つて居ると思ふ。一面に遠心力もあれば一面に求心力もある、絶えず分離しようといふ力もあれば絶えず集中し合同して行かうといふ力もある。之を若し平等といふものに就て例を取つたならば、總て平等といふ主張と一方に是に對して全然反對な所謂差別的な空氣がある。今日仮に勞働問題を例に取つて見ても、今日の仮に男子だけを例に取つても其男子が皆同じ健康狀態であり、皆同じ知識を有し同じだけの意志の力がありとは思へない。必ず其間に體力の異なるものもあれば小なるものもあれば、知力の勝れた者もあれば劣つて居る者もあれば、意志の鞏固なる者もあれば劣つて居る者もある、必ず此間に於て等差がなければならぬ。或心理狀態としては寧ろ非常なる壓力とか力を崇拜する心理狀態が人間にあると思ふ。吾々が或上官を戴いて居る、或は或將軍を戴いて居る、或は政黨で或領袖を戴いて居る、此上に立つ人は強ければ強い程、デスポチックであればある程宜い。苟も其人が勢力があり、其人の人格力量があれば其勝れるといふことは或意味からいふと平等といふことには相反した意味である。人種平等といふ意義の中にも一方之等に逆らふ空氣は絶えず起つて居る。吾々が南洋方面を見ても今や印度支那に於ては戰線から戻つて來た印度支那の民族は約四五十萬居る、印度支那に居る民族は在來印度支那に於ける經濟上の實權を得

で居る支那人に對する反抗といふ熱が起つて來て居る、從來吾々の利益は支那人に依て主として壟斷されて居る、之を排除すべしといふ聲が聲として揚がるのみならず西貢でも東京でも河内でも到る處で或は燒討として起つたり各處に動亂が起つて居る。爪哇に於てもさうである。一昨年暮です始めて此爪哇民族は支那の御祭の日に支那の街を襲ふた。今度は爪哇民族の一種の團體が出來て來る。獨り爪哇民族ばかりでない、今度は爪哇人と蘭人との混合種は混合種として又爰に一つの自覺といふものを導いて行く。要するに人種の異なるもの、歴史なり風俗なり習慣の異なるものが互ひに争ふといふことは不思議はない。一つの民族の中でも何處の國の歴史を見ても有史以來絶えず闘うて居る、況んや人種を異にするに於てをやである。そこで吾々は所謂平等とか平和とか或は博愛であるとか自由であるとかいふことを口にする歐米の各國にしてです、此間やつて居る實蹟を見れば矛盾したものは到る處にある。而かも其處ぢや、此歐米列強の人が獨り日本人といはず北米合衆國に於て今日殆ど一千萬に近い黒人に對する今日の壓迫、虐殺、是は一体北米合衆國人としても肯かれるものであるかどうか。又コンチネントに於ても猶太民族に對する歐米人の態度といふものは是は皆差向ひになつて論議して誰でも之を是なりと認めるであらうか。歐洲の變局、時局以來の社會狀態の變遷殊に露西亞に於て最も甚しい變亂を見て今日尙ほ收拾する所を知らぬ此圏域の主なるものには特に露西亞に於ける猶太民族に對する壓迫が私は強い原因になつて居ると思ふ。而して彼等猶太民族に對する差別待遇殊に露西亞に於ける幾多の居住の制

限であるとか、或は各種の公權の剝奪であるとか、或は虐殺であるとか斯の如きことは誰と雖も是は面と向つて其非なることを否定し能はざるものである、而かも實行するのである。それでさういふ連中だから、さういふ連中の前に人種の差別撤廢を持つて行つても致方がないぢやないかと言得る。併し事實といふこと、理論といふことは無論別であつて又吾々が絶えず理性に依て進んで行つて少しでもそれに副はして行くといふ意義からいへば人種の差別撤廢といふことは何處の國がいほうと世界の將來進むべき方針であることは明かである。

唯だ今までは私は歐米の各國には矢張得手勝手があるといふことを御參考に申上げたが、實は其矛盾は日本民族自身が餘計に有つて居る、少くとも同じ位有つて居る。若し猶太人に對する歐米人の態度を云々するのなれば日本でも随分特殊部落に對しては相當の差別待遇はして居るらしい。獨り他國を問はずとも同じ日本帝國臣民となつて居る朝鮮人、臺灣人に對して矢張差別待遇をして居る。而かも此朝鮮人なり臺灣人——支那人といつて宜い——此民族と日本民族と文化の程度、人種の差違からいへば佛蘭西と獨逸或は佛蘭西と伊太利と露西亞と塊地利といふ程私は差違はないと思ふ。同じ自分の國民として居る朝鮮の民族なり臺灣の民族に對する日本國民の差別的態度は少くとも歐洲の各國相互間の差別待遇よりまだ大なるものである。殊に支那民族に對しての日本人の差別態度は或は尙一層強いものがある。日本は亞米利加に對して絶えず移民問題に就て折衝して居る是は長い歴史です。入國者を幾多の方法に

依つて制限をして行き、今度は一旦入國したる者も之を制限する爲に其學童は白人の學童と隔離する、或は白人と日本人の結婚は是は無効とする、或は新に土地は有たせない、或は在來有つて居る土地も死んだれば日本人であれば相續はさぬ、是は随分ひどい差別待遇である。加奈陀の如きもルミューの協約以來移民の入國の制限が御承知の通り盛んに行はれて居る。昨年の六月以後に於ては移住の制限それから入國の條件は新に幾多の條件が加はつたのみならず加奈陀の總督は總督令に依て加奈陀の氣候、産業、社會、教育制度其他の状態に適應せずと認むる國民、人種、宗教、階級又は職業に屬する移民の入國を一定の期間又は永久に禁止又は制限するを得、是はマー日本人に對するだけの積りではないですがさういふ條令も出來て居る。昨年の十月加州の勞働會議では北米合衆國には總ての日本人居住者を拒否する法律案を出せといふやうなことでまで決議になつて居る。濠洲の首相ヒューズは御承知の通り歸つて來て、今回の講和會議に於て兎も角も成功したことは濠洲は白人の濠洲なりといふことを徹底したことである、吾々は敢て日本人を嫌ふといふのではない、併し吾々はニューギニアといふものを握つたのである、之を握つて居らぬといふと一朝事有れば是は我濠洲を脅威すべき足溜りになるのである、之を幸ひに自分が握つて居る、而して此濠洲には異人種の足を入れしめぬのである、吾々は自分の家へお客を招く自由は有つて居る、併し其お客をです、玄關も臺所も客間も到る處へ入れねばならぬ義務はない、況んや其客をです、永久にお客として自分の家に置かねばならぬといふ理窟はない、吾々は歴史に於て

種族に於て、理想に於て、運命に於て全然異なる種族を入れることを許さぬのである。是は戻つてのヒューズの所謂亞米利加のモンロー主義の如く所謂濠州のモンロー主義の徹底といふことを叫んだ聲であります。カルフォルニアの有名な上院のヒーランは曰く、經濟的に於て日本の労働者には對抗が出来ぬ、故に之を一緒に入れることは自分等の労働者の戦敗——戦ひに負けるといふこと——で共に競争は出来ないのである。所謂經濟上の理由が人國の制限を餘儀なくするのである、もう一つはいふまでもなく人種の相違である、種族的相違である、是は我輩等が日本の民族の入國を拒絶すると同じく、同じ種族でありながら日本へ支那の労働者が來れば拒絶するぢやないかと。實際此生活の状態なり宗教なり風俗習慣、各種の点に於て違つて居る、又眼色毛色も違つて居る者が御互ひに同じやうに居らうといふことには私は無理が明かにあると思ふ。まさか吾々が今直ぐ阿弗利加の食人種なり或は臺灣の未歸順の生蕃と暮せないのは明である其人種的嫌惡は互ひに相知らぬ又互ひに相近付かぬ間は一層強いに相違ない。恐らくは徳川の末葉に於て所謂鎖國攘夷を唱へた當時の日本人が西洋人を見た感じと當時の西洋人が日本人を見た感じは今其比例もない程反感が強かつたに相違ない。それは經濟的差違が烈かつた、丁髷を結うて居る態度は餘程違つて居る。吾々の方でも當時の西洋人を見た眼色なり毛色の違つて居る感じは今日とは非常に相違して居るに相違ない。段々と互ひに親密になつて互ひに調整して來れば互ひに相容れ得るのである。併し是は程度の論である確か西園寺侯であつたか、まさか黒ン坊と一緒に

なれまいといつたとかいふので、どうもさういふことをいふのは怪しからぬと新聞にあつたと思ひますが、私はさういつて居るのが當り前と思ふ。議論をする人と實際其衝に當り實行する人とは立場が違ふ。能く吾々を捉へて早く戸籍法を改正して法律上結婚さへ認めれば同化は自在であるなど、机上で論をする人がある。私は先づさういふ人に對して自分の娘を臺灣人に嫁に遣るが宜い、臺灣人の娘を貰ふが宜いといふ。事實問題として種族の差違といふことは純然たる同じ民族の中の共同生活よりも其間幾多の居住に支障を來すべき原因が多いことは事實である皮肉にいへば日本が人種の差別撤廢を要求しに行くのならば、それに先立つて同じ系統の民族の中でも而かも同じ帝國の中で先づ朝鮮や臺灣の人種の差別も廢めるが宜いぢやないか、支那人に對する差別も廢めるが宜いぢやないか、他所には勝手に這入つて行きたいけれども内には這入らさぬといふことは許せぬぢやないか、斯の如き事は私は明かに言得ると思ふ。

結局一体如何になつて行くのかといふ問題を推詰めれば世界の民族は是は將來益々交通は發達して來る、經濟關係は益々密接になつて來る、一方で人口は増加して來る、増加して行くのみならず一人當りの一箇人の欲望が増加して行く。語を換へていふと一人の生活状態は世界の各國の中の一番高い方に向て行きつゝある。日本の中で例を取れば一つの日本の帝國の中で元は田舎と都會といふ間に非常な別があつた、一方では電燈があり水道があり電車があり汽車があるのに、物の一日と行かぬ田舎には行燈を點けて或は火口で煙草を吸つて米も喰ひ切れず種などを喰つて居る所があり得た。ところが田舎も都會

の生活が段々平準に向つて行くのである、何といつても其方に向つて行く。ところが或者は百姓が贅澤になつた生意氣になつたといふ、けれども吾々は田舎に居る百姓であるが故に粟や稗を喰はなければならぬ、都會に居るが故に米の飯を喰つて宜いといふことはないと思ふ。吾々は全体の國民の生計状態が上るといふことば理想でなければならぬ。又黙つて居ても上る。東京と大阪と隔つて居るが此間に汽車を通ずれば沿道は自然開ける、今度は各國の間も同じことである、より文化の進んだ國に向つて段々他の國が上つて行かねばならぬ、是は大勢である。或民族だけ愚にして置くことは出来ぬ。詰り世界の將來はどうかといふと、一つソ國の中に於て各人の生計状態が進み各人の教養が進んで来る。或は今までは其民を愚にして居るから露西亞の兵隊は強いのだ、獨逸の兵隊は強いのだといふやうなことも吾々は聞かぬぢやなかつた。亞米利加の如きあの海軍は金力で以て軍艦は何艘でも出来る、併し一朝事有つて桑港を出發するといふ時に將校水兵の何プロセントかは上陸して逃げてしまふのである、此將校水兵といふものは金の方では出来ないのだといふ。併しです、仮に餘り智慧が附かぬ方が強い者になり得るかも知れぬが、愚にして強い者と教養が出来て覺悟して強い者と比較は明かである、本人が自覺して強いのは尙ほ強い露西亞は必ずしも強くなかつた是に反して自分の頭の上に火がついたのでもないが北米合衆國は各人が皆自覺して矢張歐羅巴へ出掛けて行つた。將來は要するに國といふ單位から見れば身體も健全であり、意志も健全であり教養の餘計出来たものを多數有つたものが強いといふことにならな

ければならぬ。同時に民族として小なる民族は私は矢張破れると思ふ。世界的といふことは口にはいひ得ることであつて、即ち吾々が眼色毛色の違つて居る間、各國が相對峙して居る間は其民族は大にならなければならぬ。吾々は朝鮮なり臺灣なりに就て有力なる者と話して居る時に、少くとも休戦になるまでは君等見よ、白耳義はどうか、和蘭はどうか、シユワイツはどうか、バルカンの聯邦はどうか、斯かる時に矢張大なる民族、大なる力を有つて居らなければ如何なる永久の平和條約で保證されて居つてもどういふ國際法規の保證があつても實力の下に於ては何等の意義をなさぬでないか、吾々は大なる民族より強くなるべき民族の要素にならなければならぬ、今日は歐羅巴の平原は自分等の胸や腹の上で殆ど吾々の想像も出来ぬ苦しみを嘗めて居る、再び歐羅巴の平野で斯の如き苦しみを繰返すといふことは絶對に無いとはいはぬけれども、是は容易に想像し得ぬことである、次に起る問題は種族と種族の問題である、昔はチュートンは吾々はチュートンの天下である、伊太利なり佛蘭西は吾々は羅甸の天下であるといつた、然るに獨逸と奧地利と同盟を作れば是は吾々はアリヤンと組まなければならぬとなつて、斯の如く大にして來れば東洋と西洋或は白人種と黃人種といふ問題にならなければならぬ、ところが結果は前いふ民族自決といふ聲に依て到る處戰前よりも幾多の國が出来たが私は一時の現象と思ふ。斯の如く小なる國が各々維持して而かもそれが榮えて無事に行けやうとは想像出来ぬ。果して戰局前のやうに戻るやうである——どう戻るか知れぬが——今日の如きあのごてくして居る澤山のものゝが治まつて行く

かといふと私は斷じて治まつて行かぬと思ふ。要するに今日は民間にある事業を見てもさうです。段々或會社が分裂して行くといふことは想像が出来ぬ。鐵道の會社でも或はどんな紡績會社でも段々世界の事業のスケールが大きくなればなる程合同して行く、製糖界でも或は其他各種の自然的獨占事業になれば皆合同して行く外はない。で今日の如き小民族の分立して居る現象は私は一時の現象と思ふ。どうしても互ひに結局は或大なる結束を作つて御互ひに平和を樂まなければならぬことに落ちて來なければならぬ。唯だ其要件は銘々が平等自由といふ見地に依て平和に達するといふ立場に進んで行かねばならぬと思ふ。

それで今日の日本の國民といふ者は要するに島國であるといふことが一つ、歴史です、又天然の運命である、世界の國際場裡に顔を出してから時が短い、而かも短か、つたけれども此日本民族は比較的他の民族よりも見込のある民族であつた、又特殊の歴史を有つて居つた、又地勢上も宜かつた、明治大帝の御稜威の結果もありませうが、兎も角も戦へば捷つ、領土は擴がつて行く、必ず何時も甘い工合に行く、決して一遍々々戦ひで勝つて行くことにケチをつけるのではないが、私は又勝つて行くといふことは考へ物であると思ふ。日露の戦役、軍事の當局なり又其他の上局の者は如何なる状態にあつて平和をしたといふことは知つて居る。併し國民は日本の軍隊は必ず往けば勝つものゝ決めて居る。バルチック艦隊の戦ひでも、もう日本の海軍は外國の海軍を譯無しに倒せると思つた。大小不揃ひの幾多の艦

をバルチックから遠廻りして對馬の海峽まで來た所で破つたのを見て恰も此方からバルチックまで出掛けて行つて勝つたが如く考へて居る。甚しきに至れば上村艦隊は濃霧で敵艦を見失つた、さうすると篤志家は上村中將の邸宅へ石を投げた、其子供が學校へ行けば其子供を虐める。濃霧で敵艦を見失つても家へ石を投げる位の篤志家を以て満ちて居る神經過敏な日本國民である。若し今回の此世界の大戰の中には飛込んで居つたならば一体どれだけの石を投げる積りであるか。どれだけ其子供の學校に出たのを虐める積りであるか。恐らく國民は皆上擦つて聞いて結局それが半年位續いた時に其時の當局を攻め其時の陸海軍を攻めて又外務當局を攻めても是は追付かない。是は私は日本の上へ飛行機が來て爆彈が落ちて來た時に同じ問題が出ると思ふ。我輩が二三週前に飛行機に乗つたといふので下村が飛行機へ乗るといふのは無謀だと此間も大分攻撃を喰つた、其位日本の飛行界の前途は遠遠であるが、是で一度此上へ來て爆彈を落されて見ると非常に騒ぎ立て、何故平常から之を防禦する方法を講じて置かなかつたかヤアどうぢや斯うぢやと定めて非常に騒ぐことだらうと思ふ。併し今幾ら騒いだからとて飛行機も出來ないし飛行將校も出來ないから私は其時が眞の覺醒時であらうと思ふ。今日の日本民族は上調子である。どうも旨い工合に勝つて行つた、決して働かずに勝つた譯でもなし、それは當局の非常の苦心、民族の後援非常な努力に因つたものではあるが、併しそれに對する鑑アツブレキエーション 識イデオロギンといふか推エスタメーション 測の工合が餘程違つて居りはせぬかと思ふ。其結果の著しく現れて居るのは支那人に對する態度、中華民國に對す

る態度、今日の此日本の國民の外人に對する態度は一言にしていふと成つて居らない。支那は兎も角四億の民衆を備へて居つて日本と同じ人種であつて所謂屠齒輔車の關係にある、私は對支問題といふことが日本の一番大事な問題であると思ふ。然るに現狀甚だ面白くない。ばかりでない随分續くだらうと思ふ。ポイコットといふ問題は續かぬにしても——ポイコットといふ問題のやうに算盤で出たものならば物質的のもので獲得の問題であるから厚く出せば解ける、時に依ては利に依て起り利に依て止む——今回の範圍は多くは學生で、到る處學生が閑に任せて朝から晩まで排貨排日の問題に没頭して居る。一例を以てへいば一時南支那方面で排貨の盛んな時、但し石炭マツチは此限りにあらずといふ排貨をやつて居つた時であるが、香港の石炭市場は撫順炭、或は開平炭、筑豊炭、極少量の臺灣炭が這入つて居つた、ところが時局の結果撫順炭はもう下りて來なくなつた、筑豊炭も來なくなつた、臺灣炭は却て内地へ今年のように三十萬噸も逆送されるといふ譯で、其臺灣炭が香港に這入り香港の市場は開平炭と臺灣炭の競争といふ状態で、距離の点から臺灣炭の需要が多い。夜の電燈も工場の動力も此石炭が本であるから、此石炭が絶わると電燈は消ゆる各種の工場の動力は無くなる。汕頭の有志家が來て是は輸出を止めてやらう、報告を聞いて一つ先方からポイコットをするのを今度は逆に此方からポイコットをして送らぬことにしてやらう、さうすると汕頭の町は少くとも半箇月か一箇月は石炭が無くなつて闇黒になる、是は幾多の調査をして領事館などにも打合せて相談をした。ところが三井なり其他石炭商は折角地盤を固め得

たのを今此方からポイコトトとしては積年の勞を泡にしてしまふから待つて呉れといふ。電燈會社に石炭が二千噸以上積んである。之れで學生が騒ぎ出した。學生は金錢を貰つて騒ぐのでもない算盤を弾いて騒ぐのでもない。自分等の學生時代にストライキをやつた覺があるが、騒ぐのは算盤づくでない。ジャンクへ此二千噸の石炭を積んちや沖へ行つて投げる、又積んちや沖へ持つて行つて投げる、斯の如くにして二千噸の石炭を學生團が數艘の船で之を沖へ運び出して皆海の中に投じてしまつた。是は錢金で出来るぢやない。其後來る處排貨排日の問題が貼り出された、或は店の前、或は四辻 雨が降らうが風が吹かうが彼等は畢竟何を貰はうといふ考でもない、學校へ行つて下手な教師の講釋を聽くよりも此方が餘程面白い。此學生が學校で卒業式に賞品を貰ふと賞品には告示を忘るゝ勿れ、或は民國五年五月八日と記してある。今日四億萬の民衆からいふと三百萬、四百萬の學校の生徒は物の數ぢやないが、併し四百萬の學生は總て四億の民衆を率ゐるものである。日本の維新前三千萬四千萬の國民で、之を橋本左内頼三樹梅田雲濱など此五十人か百人の人が率ゐて立つた。今日臺灣は靜謐であるといふ、或は朝鮮はどうかといふても、此多數の者を率ゐて先きに立つ者は少數の者である。それは匹夫も志は奮ふべからずで、相當教育があつて自分で決心した力は強いもので、吾々の強い所以も其處にあるが、裸體にしようが、ひッ叩かれようが、相當口が利け、相當筆が立ち、相當意見のある者は決して屈した切りでない。今日四億の民衆の先驅になつて居る者はどうかといふと讀書人である。彼等の胸底にどういふことが潜

んで居るか。一体支那に於ける日本の教育の施設はどんなになつて居るか。世界列強特に英佛獨米是等の國は教會なり、或は病院なり學校といふ上にはどれだけ彼等は力を入れて居るか。世人は福建は不割讓だ、あれは日本の勢力範圍だ、爾ういふて居る。どころが福建に於てどれだけ英米佛各國の施設はあるかといふと、日本の數倍、數十倍で而かも歴史は一朝のことでなく長く古い。先月の新聞に依ても既に支那に向つて亞米利加から四百有餘のミツションが這入つて居る。海南島の一人の外國人が居らぬ所でも亞米利加人の學校も出來て居れば教會も出來て居る。私は軍人諸君が居るからいふ譯ではないが、どうも日本のやり方は平時に於ける思想界に於ける施設も如何であるか、いざといふ時にサーベルや鐵砲を振上げた効果は、それは握り拳流で額を押へもしよう逃出しようが、是は眞に其等の民衆を教へる所以でない。私はさういふ金があるならば何故平常から金を入れて置かないかと思ふ。臺灣に居つて吾々がどういふ事を行はうとしても、内務省に金が無い、肝腎の内務省に人が無い、日本の文部省はどういふ教育をして居るか、少くとも陸軍當局など、較べて足並は後れて居る。長い物を削らうとはいはぬが、足らぬものは増さなければならぬ。

要するに日本の國民にはカルチュアがない。吾々が外國に居つて到る處或土地に居れば其土地に馴染み其國に馴染む。獨逸に居つた人は皆獨逸最良になり、英吉利に居つた者は皆英吉利最良になる。私の如き白耳義に居つたから白耳義最良。其私の白耳義最良は其時の政府の方針が善い譯でも其白耳義の國

の政体が善い譯でも何でもない。其處の白耳義人が善い、吾々の居つた下宿屋のお婆さんが善い。少くとも日露戰役前に於て吾々歐羅巴の何處を旅行して居つても吾々を日本人といふ者はない、或はシネア或はチャイニス皆支那人といふ。吾々は快しとしないでも先方は侮辱とも思はない。それで宜いかと思つたと辯解して居る、もう其時分の小學校の地理などには出て居らぬ、其日本人が大^{コンチネンツ}陸の何處を旅行して居つても、吾々は芝居へ行つても或は競馬場に行つても、或は飲食店に行つても、球屋に行つても、何處の下宿屋に行つても少くとも吾々に對して暖かき空氣を以て接して呉れる、吾々は今だに其處の下宿屋なり其時實際して居つた人に年賀狀を出す、外國字を書くのは甚だ不便になつても年賀狀を出す、贈つても呉れる。果して數千數萬の支那人が日本に來て下宿屋にでも居つて歸つた留學生とごれだけの者が交通して居るか、それで同種同文といふのが。殆ど吾々にいはせれば神田に於ける留學生に對する一般國民の態度といふものはゼロである。此日支の問題とか、ヤア對外問題といふものを言ふ時に政府當局や外務大臣などを攻める者は時代後れである、國民のカルチュヤが出來て居らぬ。先づ外國では各國民が互ひにホテルなり、或料理店なり、往來の群集なり、會つた時の感じが日本の九州とか中國とか東北とか北陸とかの人が互ひに寄合ふのと同じである。それならば日本人は強きを挫き弱きを助けるといふから外國人に對してもチャンコロといふ態度を以て是に當るかといふと、どうもさうでない。白人であれば英吉利人でなくとも、佛蘭西人でなくとも或はバルカン半島なり西班牙や葡萄牙や何處の人間

であつても共に手を引いて歩いて、一緒に食事をして居つても一廉己れば外國語を知つて居るといふが如き態度に我輩には見ゆる。ところが支那語を話し支那人と連立つて歩くことは何だか肩身が狭いやうに感じて居るやうに見はせぬかと思ふ。少くとも一番日本に同情を寄せ、又一番吾々が寄せて貰はなければならぬ連中に反感を有たす。是は甚だ將來大なる民族となるべき、大なる包容をなすべき民族としては耻辱である。二三日前の新聞などにも丁度佛蘭西へ行つた留學生が二千人、千九百十九人か二十人あつて、通じて後と六千人行くといふことがあつた。殊に團匪の賠償金を免除といふことにして其金で北京には米華學堂といふものを建て、亞米利加には年々四百人と私は記憶して居るが幾多の學生を送つて居る。此支那に於ける教育問題、又臺灣自体の教育問題、是は昨年の中頃私は歸一協會で講演をしまして、後とから關係の材料を皆合せて送りましたから、比較的大部になつて出はせぬかと思ひますが、所謂教育問題といふことに就てはそれを以て御覽を願ひたいと思ふのであります。

要は其爲すことが皆手遅れになつて、總て或物を與へ又或感しを善くしようといふことであれば、所謂自主的外交といふことで先づ自分から先きに立たなければならぬ。私は西比利亞へ出兵したのは自主的外交で先きに出て、撤兵する時も日本が真先にしたかどうかそれも知らぬ。併し兎に角日本といふ國が人に情けを掛けるのでも何でも其効果は半減される、或は十分の一に減つてしまふといふことだけは考へなければならぬ。やる位ならば先手を打たなければならぬ。何にか取る時ならば先に取るならば手

を叩くが遣る時にも先に遣ることを考へなければならぬ。どうせ政治を執る人間は生命を捨てゝの覺悟であるから社會の攻撃などは顧慮するに足らぬ。他所に尾いて行くのだといふのぢや私は遣つた意義は無くなつてしまふと思ふ。今日の日本はもう少し自主的にならなければならぬ。併し其自主的といふことは大なる方は少くとも東洋で今までは露西亞もあり、獨逸もあり、佛蘭西もあり、英吉利もあり、亞米利加もあつた、今日露西亞は倒れ、獨逸又粉碎せられ殆どアングロサクソンの時代になつて來て、日本の對外關係といふものは甚だ私は困難になつて來て居ると思ふ。又外國から日本を見ても甚だ小癩に障つて來て是ると思ふ。五大國として會議へ行つて相當提案^{フロポザル}だけはする、併し銘々生命掛けて騒いで居るのにそれぢやぞれだけの貢獻をしたかといふことになつて、水雷驅逐艇が二三艘位地中海に出て行つた、それで今の船越中將なり何なりが少くも會議へ出られることになつて色々拜み倒して仲間へ這入つた。是が新聞に出ると日本の連中に對して彼等は感謝して居ると得意になつて居る。吾々爰に各國の國民。大使館に居る人、亞米利加の這入らぬ時分も、亞米利加が這入つて來ればもう一層多勢の前で言ふことは憚ることであつたらう、併し主張だけは相當に主張するけれども、凡ての事は聽くことだけだらうと思ふ。今日は内治の國運を如何にして執つて行くかといふことに就ては立法機關あり行政機關なりを通じて幾多の問題があります、又現時の社會問題として攻究すべき問題は多々あります。併し内部の問題は時の遲速に拘らぬで濟むか知れぬ、けれどももの外交問題は一日後れると或は取返しのがかぬ事が多い。

一福州事件、是が延いて全体に於ける又排日を盛返し延いて幾多の國際上の面倒トラブルを起す而かも福州にだけ人間が居るかどれだけの役者があるか、日本に於ける人材は仮に福州に陸軍なり外務なりから行つて居る者か權衡を得て居るか。惜いかな日本人は海國男子とはいつて居るが、併し此男子頗る外へ出るのを嫌がる男子で、それで各國に對しては差別撤廢をいひながら殆ど其居る前でチャンコロ位のことはいひ兼ねぬだけの頗る無遠慮といふか不謹慎な國民である。此日本民族をどうにかして日本の特色のある民族として吾々も國民として其一人である以上は己が缺點を自覺して是は改造して行かなければならぬ。殊に對支問題には根本的に教養を造ることに文部省の方から奮つて努めて貰ひたい。なか／＼一月或は一年のことではいけない。外務省固より、陸海軍固より、國民全体の教養が出来て来るならば即ち其時に於ける仮に勞働問題に對しても、其全体の教養と日本の勞働問題として見れば、其様に教養の出來た勞働者がカリフォルニアに行つた時にどういふことになるかといふことに想到して貰ひたい。

甚だ問題は多岐に亘つて居つて大きな問題であつて、而かも見方に依つて色々に取れる、私のいふて居ることも或は撤底せぬやうに御聽きの方があるかも知れぬ。又御聽きになつても或一部のいふて居る事を捉へられて私の眞の豫想することが誤解されることがないともいへぬと思ふ。けれども其極義は何處にあるかといふと、日本の民族は大なるべし而かも體質は向上すべし、其人格なり品質は高まり所謂教養が出来上つて、而して其今包含して居る領土は爰に朝鮮民族臺灣民族があるではないか、是すらも

同化し能はず、又同じ種族である支那民族に對して政策の上に於て意見を異にする、斯の如きことは幾多例があることで、同じ日本の中でもそれは夫婦喧嘩もあるから喧嘩することもあるが、人の顔を見れば氣を悪くするといふことは國民自体に所謂寛裕的教養、國際的教養が出来て居ないからで、斯の如きことでは日本は大を成し能はぬ。其包容して居る所は斯の如くで、此狭い所で殖わて行く人間の運命は蓋しどれだけ社會問題を兇惡にするかも知れぬ。斯ういふのであります。此位に致します。

熊澤蕃山の臣下に「しる」の字を用ひたる一例

稱宜云、他の國には誰にても天下をさる人の王となりたまふて日本にては、かく天子の御筋、一統にして天下を知りたまふ人も、臣と稱し、將軍といひて天下の權を取り給ふ。